

【飯山市】 1人1台端末の利活用に係る計画

2025年3月

項目	内容
①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿	学校でのICT活用においては、1人1台端末を道具として使いこなし、クラウドを最大限に活かした協働的な学習を更に進めることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進める。また1人1台端末の特性を生かし、不登校や病気療養等、通学が難しい児童生徒も、学習の状況を自ら把握して学習計画を立てたり、自分のペースにあわせて学び直しを行ったりする事ができるようにして、個別最適な学びを実現させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
②GIGA第1期の総括	GIGAスクール構想第1期では、windows端末を導入し、導入した令和2年度は、導入前から新たに使い始めた「Teams」の研修実施や、導入後はICT支援員による各学校でタブレットやTeamsの使い方を授業で児童生徒へ指導を行い、クラウドを使ったタブレットの利用について慣れてもらうことを重点にGIGA初年度に取り組んだ。その中で、一部の学校で、クラス全員のタブレットがつかないという状況が発生することがわかり、令和3年度に一部アクセスポイントの増設等を行い対応した。 個別最適な学びの実現に向けては、AIデジタルドリルを小中学校に導入し、各校では朝の時間や家庭学習等で児童生徒が取り組み、児童生徒個人の理解度に応じた学習を進めた。 協働学習については、専用の学習支援ソフトを活用したクラウド学習を進めることができた。一方、OSメーカーが提供する汎用的なクラウドを利用した協働学習については、学校により取り組みの差が出ている。第2期は端末OSや汎用的なクラウドをより協働学習しやすいものに見直し、児童生徒が、将来に向けて当たり前のようにクラウドが活用できるスキルを身につけられるようにする。 そのほか、第1期はコロナ禍の時期と重なり、濃厚接触等で学校に来ることができない児童生徒に対しては、オンライン授業を行うことで学びの保障を確保することができた。（一部学校では、端末持ち帰りを実施せず、オンライン授業ができない学校もあった）
③1人1台端末の利活用方策	【1人1台端末の活用】 第2期の端末仕様検討にあたり、学校でも望ましい活用を検討したうえで仕様を決定した経過から、教員研修等を通じて、より主体的な活用の推進を図っていく。また学校の意見を踏まえ、より利用しやすいクラウド環境を令和6年度中に整備したことから、令和7年度からは全校において本格的なクラウド運用をICT支援員を活用しながら推進していく。 【個別最適・協働的な学びの一体的な充実】 第1期で積み上げた児童生徒のスキルをさらに伸ばすとともに、不登校、障がいや特性のある児童生徒などにも積極的に活用を進めていくことで、個々のペースを教員が把握し寄り添いながら学習を一層進める。また協働学習を通じ、学習意欲向上や児童生徒間の活発なコミュニケーションを図り、探究的な学習の質を高めていくことを目指す。